

【発達段階ごとの特徴と取組みの柱】

これらの特徴を踏まえ、読書環境の整備のための具体的な方策に取組みます。

	ことばを知り	本にひかれ	本に出会い	本に親しみ	本に学ぶ
	<ul style="list-style-type: none"> ・文字やことばを知る ・ことばを聞きとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・本で物語を楽しみたい ・本で何かを知りたい、調べたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい本と出会う ・新たな発見ができる本と出会う 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を身近に捉える ・自ら好きな時に自由に本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容を読み取る ・必要な情報を活用する
乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・生後4か月位からまわりの大人の読み聞かせをとおして、少しずつ様々なことばを知ることができます。そして、モノ・場面・絵を結びつけていきます。 ・4歳頃から文字に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと触れ合いながら絵本で読み聞かせをすることにより、絵本に興味を示すようになります。 ・4歳頃から、文字に興味を示すこと等により、自分で本を読もうとするようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりの大人が、子どもの反応を見ながら、読書環境を提供することにより、子どもが楽しいと思う本と出会うことができます。 ・子どもの身近なモノや食べる・寝るといった動作などの本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが手の届く場所に本がある読書環境の中で、子どもは、自分が読みたい本について、まわりの大人に読み聞かせをせがんだり、自分で繰り返し読もうとします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の絵で想像力を育てたり、読み聞かせで聞いたことばを真似したり、ごっこ遊びをすることで、自分の感動を自分のことばで表現することの楽しみを感じるようになります。
小学生期	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、語彙の量が増え一人で本を読むことができるようになります。 ・中学年になると、更に語彙の量が増え、推測しながら文意をつかむことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や家族、学校の先生など身近な人からの影響が大きく、身近な人に勧められた本に興味を持ちます。 ・アニメや漫画の原作や関連の本にも興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の身近な場所である家や、学校・地域の図書館で本を選ぶ傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら沢山の本を読むようになっていきますが、中学年になると、個々の状況により読書活動に差がでてくる場合があります。 ・子ども一人一人の読む力に応じて読書量や読書の種類に変化が生じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字で表された場面や情景をイメージできるようになります。 ・課題解決のための読書活動を通して読解力や発表力が育まれていきます。
中学生期	<ul style="list-style-type: none"> ・多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。 ・自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人との関係よりも、友人関係に自ら強い意味を見出す時期であるため、友達から紹介された本や、ドラマや映画の原作や関連の本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動範囲が広くなり、本屋で、本を選ぶ傾向がある一方で、図書館で本を選ぶことが少なくなる傾向があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生期では、部活や塾など、高校生期になると、部活や塾に加えてアルバイトなどにより、読書をする時間がないという傾向が顕著に現れ始め、読書から離れる生徒が多くなります。 ・読書活動を継続している生徒は、学校の休み時間を使って本を読んだり、自分が読みたいときに、スキマ時間を使って本を読んだりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生期・高校生期の多様な読書活動を通して、理性と感性が磨かれるとともに、社会生活で必要となる相手の言葉を理解し、自分の気持ちを的確に伝える語彙力を育むことができるようになります。
高校生期	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生期より、インターネットやメディア等の影響を受けやすくなり、SNSや、インターネットで気になった本に興味を示すようになります。 ・自分が好きな作家の本に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生期より更に行動範囲が広がり、中学生と同様に本屋で本を選ぶ傾向にあります。 ・インターネットを利用して、本を探したり、選んだりすることもあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を継続している生徒は、学校の休み時間を使って本を読んだり、自分が読みたいときに、スキマ時間を使って本を読んだりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的な視野で世界を認識する力が育まれていきます。 ・知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことができるようになります。